中国の進化する軍事戦略

China's Evolving Military Strategy

ジョー・マクレイノルズ［編］ 五味睦佳［監訳］
伊藤和雄 大野慶二 鬼塚隆志 木村初夫 五島浩司 沢回信弘［訳］

米国の中国軍事戦略研究者による中国「国家軍事戦略」解剖

陸・海・空・宇宙・情報領域の一体化作戦（五維一体）に向けた中国の軍事戦略。通常戦から核戦争、情報戦、軍民融合など、人民解放軍の最新軍事戦略を解説・分析した決定版。

原書房　定価 本体4000円+税

中国の進化する軍事戦略

China's Evolving Military Strategy

人民解放軍の最新軍事戦略

原書房

第I部 中国
第II部 中国
第III部 中国
第IV部 中国

9784
1920

の

rategy

る

訳]

信弘 [訳]

略

による

剖

に向けた

合など、

版。

中国の進化する軍事戦略

China's Evolving Military Strategy

人民解放軍の最新軍事戦略

原書房

9784562054022

1920031040006

ISBN978-4-562-05402-2
C0031 ¥4000E

定価 本体4000円+税
原書房

China's
Evolving Military
Strategy

第I部　中国の軍事戦略に対する全体アプローチ
　第1章　中国の国家軍事戦略の概観
　第2章　変化しつつある中国の軍事戦略アプローチ
第II部　中国の通常および核戦争のための戦略
　第3章　人民解放軍空軍の使命、役割、および要求の進化
　第4章　新たな波紋を広げている海洋変革ドクトリン――中国の海洋戦略に関する検証
　第5章　人民解放軍ロケット軍――中国の核戦略と政策の実行者
第III部　中国の情報戦のための戦略
　第6章　電子戦および中国の情報作戦の復興
　第7章　中国のネットワーク戦のための軍事戦略
　第8章　中国軍の宇宙作戦および戦略の概念の進化
　第9章　軍事情報の近代化――構想に合致する組織を実現する
第IV部　中国の戦争以外の戦略
　第10章　戦略的抑止に対する中国の進化しつつある取り組み
　第11章　人民解放軍のMOOTW構想
　第12章　中国の戦略的軍民融合の概説

中国の進化する軍事戦略

China's Evolving Military Strategy

ジョー・マクレイノルズ［編］
五味睦佳［監訳］

伊藤和雄
大野慶二
鬼塚隆志
木村初夫
五島浩司
沢口信弘
［訳］

原書房

ジェームズタウン財団の使命

ジェームズタウン（Jamestown）財団の使命は、社会の出来事および動向について、政策立案者とより広い政策コミュニティに周知・啓蒙することである。また、そのような情報は、米国にとって戦略的または戦術的に重要であるが、しばしばアクセスを制限されるものである。ジェームズタウン財団の資料は、固有および一次の情報源を活用して、政治的偏向、加工または提言を加えずに配布される。それはしばしば存在する唯一の情報源であるが、特にユーラシアおよびテロに関しては、必ずしも公式またはインテリジェンスチャネルを通して利用できるとは限らない。

起源

ジェームズタウン財団は創立者ウィリアム・ガイマー（William Geimer）によって1984年に設立され、ユーラシアにおける紛争および不安定に関する研究分析を主導する供給者のひとつとして発展してきた。ジェームズタウン財団はユーラシアに関する主導情報源のひとつになるために急速に成長し、バルチック海からアフリカのホーン岬に至る分析専門家の世界規模ネットワークを展開している。この知的人材の中核には、前政府高官、ジャーナリスト、研究分析者、学者およびエコノミストを含んでいる。彼らの予測は、世界中の政策立案者が世界に十分に伝えられていない多くのユーラシアの紛争地域において現れる動向および展開を理解するのに大いに貢献している。

目次

略語一覧 ……006
組織図（日本語版追加） ……008
日本語版への序文 ……011
監訳者序文 ……013
編者序文 ……018

第I部　中国の軍事戦略に対する全体アプローチ

第1章　中国の国家軍事戦略の概観 ……024
ティモシー・R・ヒース／五味睦佳訳

第2章　変化しつつある中国の軍事戦略アプローチ
——2001年および2013年の『戦略学』 ……058
M・テイラー・フラベル／五味睦佳訳

第II部　中国の通常戦および核戦争のための戦略

第3章　人民解放軍空軍の使命、役割、および要求の進化　……088
クリスティーナ・L・ガラフォラ／沢口信弘訳

第4章　新たな波紋を広げている海洋変革ドクトリン――中国の海洋戦略に関する検証　……111
アンドリュー・S・エリクソン／伊藤和雄訳

第5章　人民解放軍ロケット軍――中国の核戦略と政策の実行者　……145
マイケル・S・チェイス／鬼塚隆志訳

第III部　中国の情報戦のための戦略

第6章　電子戦および中国の情報作戦の復興　……176
ジョン・コステロ、ピーター・マーティス／鬼塚隆志訳

第7章　中国のネットワーク戦のための軍事戦略　……212
ジョー・マクレイノルズ／木村初夫訳

第8章　中国軍の宇宙作戦および戦略の概念の進化　……259
ケビン・ポルピーター、ジョナサン・レイ／大野慶二訳

第9章　軍事情報の近代化――構想に合致する組織を実現する　……298
ピーター・マーティス／木村初夫訳

第IV部　中国の戦争以外の戦略

第10章　戦略的抑止に対する中国の進化――つつける取り組み　……22

ケビン・ポルピーター、ジョナサン・レイ／大野慶二訳 2
第9章 軍事情報の近代化――構想に合致する組織を実現する ……298
ピーター・マーティス／木村初夫訳

第Ⅳ部 中国の戦争以外の戦略
第10章 戦略的抑止に対する中国の進化しつつある取り組み ……322
デニス・J・ブラスコ／鬼塚隆志訳
第11章 人民解放軍のMOOTW構想 ……342
モルガン・クレメンス／五島浩司訳
第12章 中国の戦略的軍民融合の概説 ……376
ダニエル・アルダーマン／鬼塚隆志訳

編者・著者略歴 ……395
監訳者・訳者略歴 ……400

【凡例】 本文中、訳者による注記は割り注で示した。また中国語表記は日本の漢字に変換した。

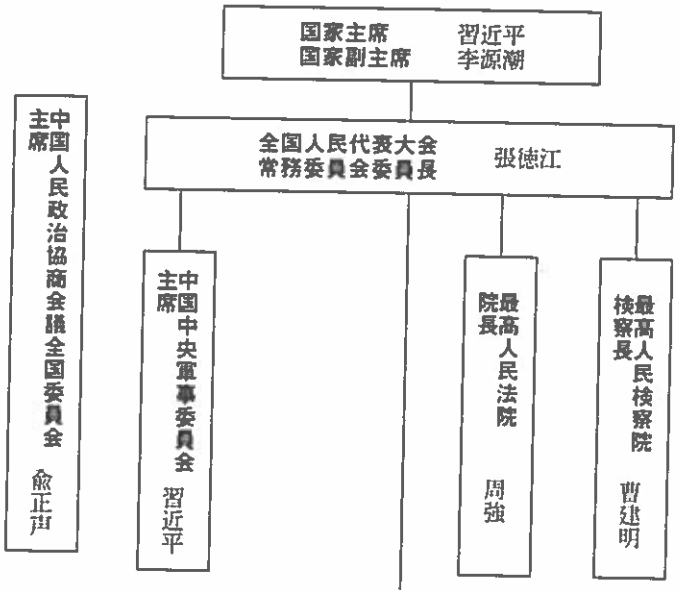
略語一覧

A2／AD——Anti-Access/ Area Denial（接近阻止／領域拒否）
AMS——Academy of Military Science（軍事科学院）
C4ISR——Command, Control, Communications, Computers, Intelligence, Surveillance and Reconnaissance（指揮統制、通信、コンピューター、情報、監視および偵察）
CCP——Chinese Communist Party（中国共産党）
CMC——Central Military Commission（中央軍事委員会）
CMI——Civil-Military Integration（民軍統合）
CAN——Computer Network Attack（コンピューターネットワーク攻撃）
CND——Computer Network Defense（コンピューターネットワーク防御）
CNO——Computer Network Operations（コンピューターネットワーク作戦）
CNSA——China National Space Administration（中国国家航天局）
DWP——Defense White Paper（国防白書）
GSD——General Staff Department（総参謀部）
HGV——Hypersonic Glide Vehicle（極超音速滑空飛翔体）
ICBM——Intercontinental Ballistic Missile（大陸間弾道ミサイル）
INEW——Integrated Network and Electronic Warfare（統合ネットワーク電子戦）
KEW——Kinetic Energy Weapons（運動エネルギー兵器）
KKV——Kinetic Kill Vehicle（運動エネルギー迎撃体）
LSIO——Lectures on the Science of Information Operations（情報作戦学教程）
MCF——Military-Civilian Fusion（軍民融合）
MIIT——Ministry of Industry and Information Technology（工業・情報化部）

INW — Integrated Network and Electronic Warfare（統合ネットワーク電子戦）
KEW — Kinetic Energy Weapons（運動エネルギー兵器）
KKV — Kinetic Kill Vehicle（運動エネルギー迎撃体）

LSIO — Lectures on the Science of Information Operations（情報作戦学教程）
MCF — Military-Civilian Fusion（軍民融合）
MIIT — Ministry of Industry and Information Technology（工業・情報化部）
MIRV — Multiple Independently Targetable Reentry Vehicles（複数個別誘導弾頭）
MOOTW — Military Operations Other Than War（戦争以外の軍事作戦）
MPS — Ministry of Public Security（公安部）
MSS — Ministry of State Security（国家安全部）
NDU — National Defense University（国防大学）
NHM — New Historic Missions（新歴史的使命）
NFU — No First Use（非先制使用）
PAP — People's Armed Police（人民武装警察）
PBSC — Politburo Standing Committee（中央政治局常務委員会）
PLA — People's Liberation Army（人民解放軍）
PLAAF — People's Liberation Army Air Force（人民解放軍空軍）
PLAN — People's Liberation Army Navy（人民解放軍海軍）
PLARF — People's Liberation Army Rocket Force（人民解放軍ロケット軍）
PLASSF — People's Liberation Army Strategic Support Force（人民解放軍戦略支援部隊）
PRC — People's Republic of China（中華人民共和国）
SMS — Science of Military Strategy（戦略学）
SNDMC — State National Defense Mobilization Committee（国家国防動員委員会）

中国国家機関組織図



国　務　院

総理：李克強
副総理：張高麗、劉延東※、汪洋、馬凱
国務委員：楊晶、常万全、楊潔篪、郭声琨、王勇

弁公庁 秘書長：楊晶（兼）
外交部 部長：王毅
国防部 部長：常万全（兼）
国家発展改革委員会 主任：徐紹史
教育部 部長：袁貴仁
科学技術部 部長：万鋼
工業・情報化部 部長：苗圩
国家民族事務委員会 主任：王正偉
公安部 部長：郭声琨（兼）
国家安全部 部長：耿惠昌
監察部 部長：黄樹賢

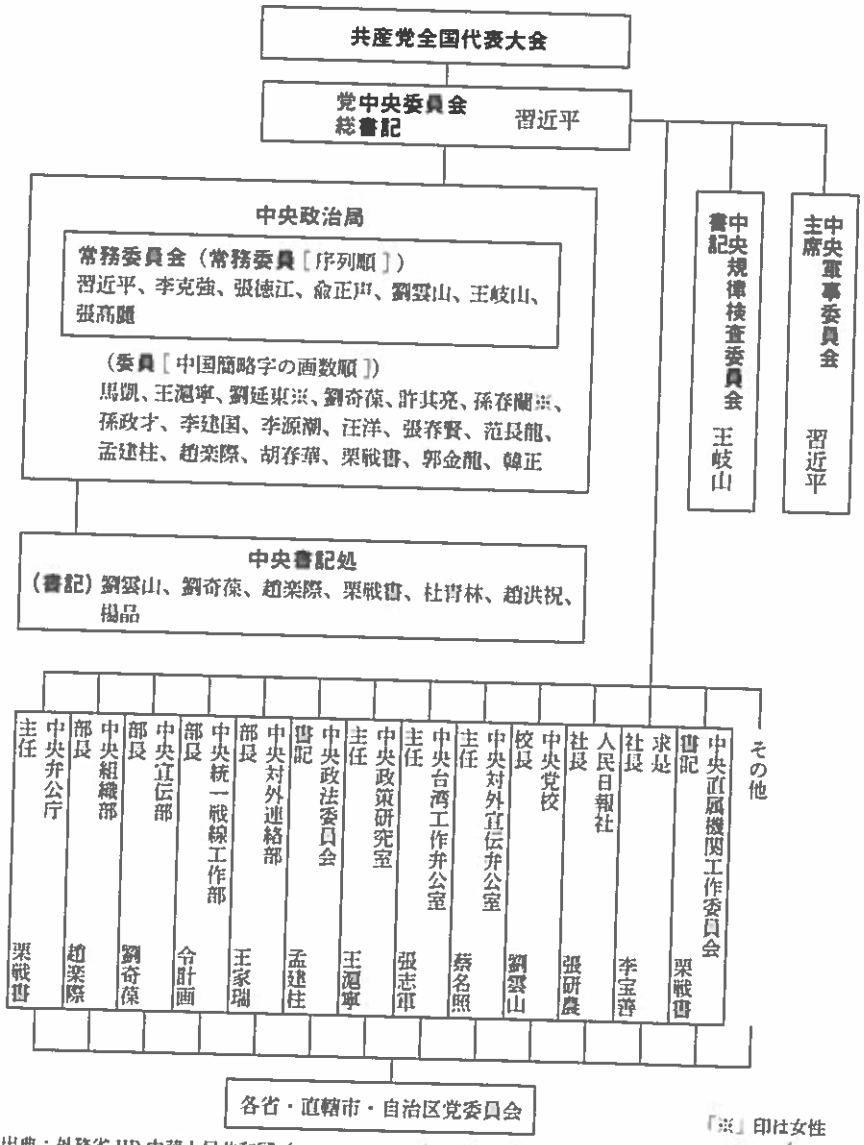
民政部 部長：李立国
司法部 部長：呉愛英※
財政部 部長：楼継偉
人力資源・社会保障部 部長：尹蔚民
国土資源部 部長：姜大明
環境保護部 部長：周正賢
住宅都市農村建設部 部長：姜偉新
交通運輸部 部長：楊伝堂
水利部 部長：陳雷
農業部 部長：韓長賦
商務部 部長：高虎城
文化部 部長：蔡武
国家衛生・計画出産委員会 主任：李斌※
中国人民銀行 行長：周小川
審計署 審計長：劉家義

「※」印は女性

出典：外務省 HP 中華人民共和国（www.mofa.go.jp/mofaj/files/000010863.pdf）第 12 期全国人民代表大会第 1 会議における選出（2013 年 3 月）

組織図（日本語版追加）

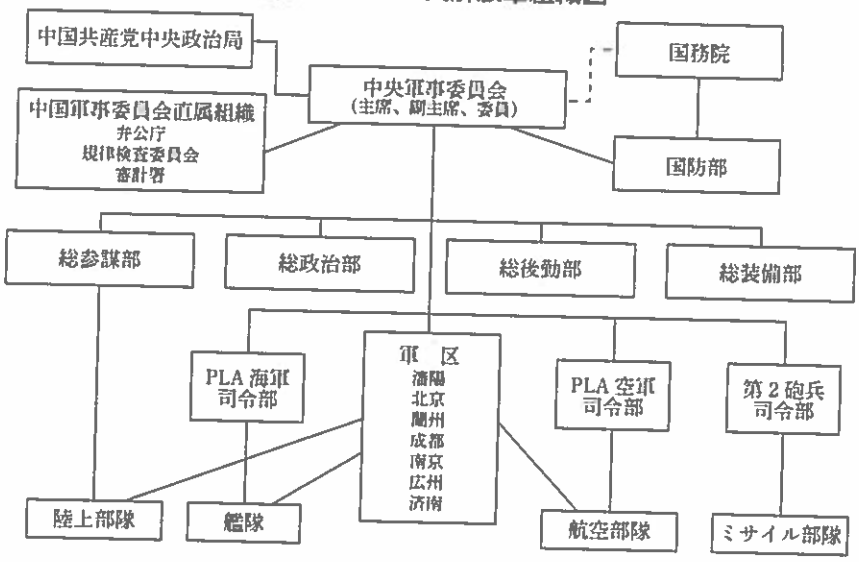
中国共産党組織図



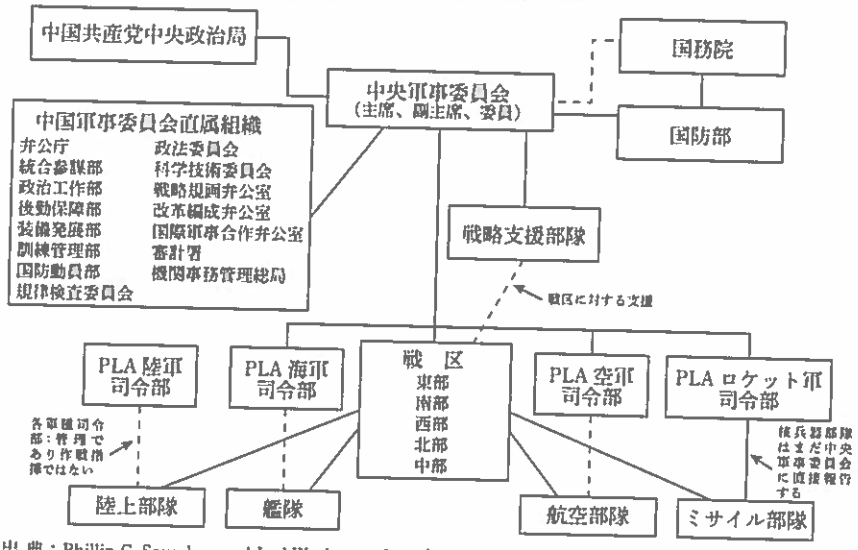
「※」印は女性

出典：外務省 HP 中華人民共和国（www.mofa.go.jp/mofaj/files/000010864.pdf）第 18 期中国共産党組織図（2012 年 11 月）

軍改革前の人民解放軍組織図



軍改革後の人民解放軍組織図

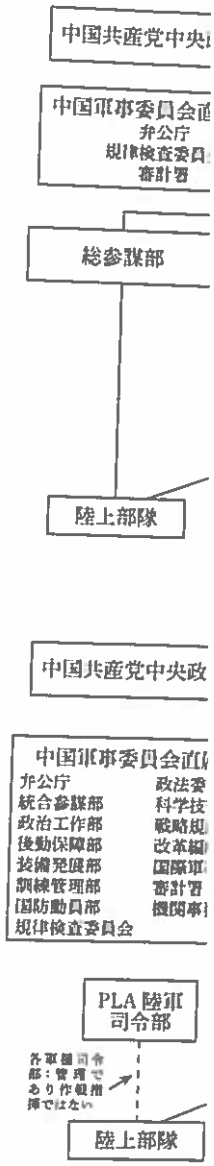


出典：Phillip C. Saunders and Joel Wuthnow, China's Goldwater-Nichols? Assessing PLA Organizational Reforms, INSS NDU, Strategic Forum, April 2016

日本語版への序文

本書『中国の進化する軍事戦略』は「奉仕活動」として始めたものである。我々の目的は米国の国家安全保障コミュニティ内において見受けられる重要な問題を解決することである。その問題とは、米国の国防コミュニティにおいて、米中戦略的バランスは枢要な検討項目であるが、中国軍事戦略文書はしばしば検討分析されるものの非常に緩慢であるとの強い認識の一致があった。非常に重要かつ権威ある文書であっても、それらが英訳され配布されるまでには数年を要している。もし我々が中国の最新の軍事戦略思想を理解しないならば、我々の分析および政策は常に場当たり的なものとなり、将来の出来事に驚愕させられることになりかねない。我々は本書が戦略家および政策立案者が中国に対する総合的戦略をより積極的に立案することを可能にするのに役立つことを期待している。

私は日本の皆様に本書をお届けすることができることを無上の喜びとするものである。私は日米の緊密な戦略的紐帯がアジア・太平洋地域の平和を維持するために緊要なものであることを確信するとともに、日米の国家安全保障コミュニティ間の絆が今後とも深化し続けることを期待している。日本は自衛隊の能力を強化しており、また台頭する中国の侵略から尖閣諸島を防衛する最良の方策を検討するにつれて、中国の戦略思想の分析は日本の意思決定において重要な役割を果たすことができるだろう。また、個人的に言えば、私は、数年前、名古屋に住んでいた私の学生時代の楽しい思い出を持っており、日本の人々に深



出典：Phillip C. Saunder
Reforms, INSS NI

い親しみを抱いている。したがって、私の著作が初めて日本語で出版されることは個人的にも極めて嬉しく感じている。

本書の日本語版が参考文献としてだけでなく、日本と西側諸国の国家安全保障研究者間のよりすばらしい連携を構築するための機会となることを切望している。学術的会議および二国間の意見交換会を通してのいくつかの交流はすでに存在しているが、我々はさらに密接なかつ深い連携を構築する可能性がある。私は中国軍事戦略に関心を持つ日本人研究者達を招待するので、私に個人的に連絡してくださることを期待している。それにより我々は協働の可能性を探究できる。

終わりに、私は本書の日本語版の困難な仕事に関して株式会社エヌ・エス・アールの木村初夫氏および五味睦佳元海将に衷心から感謝の意を表したい。彼らの支援と努力なしでは、この翻訳出版は不可能であっただろう。

2017年3月

ジョー・マクレイノルズ

監訳者序文

本書は米国にとって戦略的および戦術的に重要であり、情報にアクセスが難しい社会の出来事および動向について政策立案者に周知・啓蒙することを使命とするジェームズタウン財団から米国の著名な中国軍事戦略研究者グループの研究成果を『中国の進化する軍事戦略』(China's Evolving Military Strategy)と題し2017年1月に第2版として発行されたものである。その内容は第1章の中国の国家軍事戦略の概観に始まり、以下2001年版および2013年版『戦略学』を基にした軍事戦略へのアプローチ、空軍任務の進化、海洋戦略の変遷、核戦略および戦術の執行者である人民解放軍ロケット軍、電子戦および中国の情報戦の復興、ネットワーク戦、宇宙戦および戦略、軍事情報(インテリジェンス)の近代化、戦略抑止、MOOTW(戦争以外の軍事作戦)、および軍民融合まで全12章から構成されている。これを翻訳して感じることは、中国および人民解放軍は、習近平下で「中国の夢」として掲げられている「国家の復興」という国家戦略の実現に向けてすさまじい速さと熟慮を持って広範かつ内容の深い国家軍事戦略および中国人民解放軍の軍事戦略を進化させ、さらにそれを果敢に実行しつつあることである。すなわち米国との直接対決を巧妙に避けつつ、積極防御戦略の下で攻勢能力を着実に発展させ、陸主海・空従から海空重視に変換し、さらに核攻撃能力向上のためにロケット軍を単一軍種に格上げし、また、電子戦、サイバー、および宇宙も含めた情報戦能力を向上するため戦略支援部隊を創設した。戦略アプローチに関しては、現

代戦は「五次元一体」（五維一体）すなわち陸、海、空、宇宙、および情報・指揮統制がどのように一体化するかに掛かっていると主張している。紛争が大規模に拡大しないように抑制的でなければならないが、相手が弱点を示し、紛争が拡大しないとみれば、都合の良い行動を断固取るべきであるとも述べている。海洋戦略については、南シナ海および東シナ海での海軍活動の理論的根拠を提示し、その防衛線を外洋に拡大する必要性を強調している。またブルーウォーター・ネイビーになるべく、作戦の縦深化、攻勢作戦の重視等を強調している。長射程、精密、スマート、無人機等の対艦攻撃能力が加速度的に高まっている状況下での空母建造については、米海軍の中でも議論のある設想（仮定）、すなわち「予見し得る将来においても、空母は攻撃力、兵力、および情報力を投射する主要プラットフォーム」を根拠にしているという興味深い記述がある。また、昨今注目されている海上民兵組織は、周辺における中国海軍戦略の重要な構成要素であり戦力であると位置付けている。空軍戦略も従来の国土防空軍に中国国境および海洋権益の防護を加えるべきであるという任務の拡大について論じ、大気圏、宇宙空間およびネットワーク空間への継続的発展については、宇宙を制するものはすべてを制するとして制空権だけでなく制天権の概念を取り入れ、いわゆる「航空宇宙統合」（空天一体化）の重要性を謳いあげている。また、数年先には1時間以内に世界の任意の場所を攻撃可能な通常兵器型即時全地球攻撃（Conventional Prompt Global Strike[CPGS]）システムを保有することにも言及している。その他サイバー戦および電子戦を重視し、軍事情報を抜本的に向上させ、軍民統合、ＭＯＯＴＷにも堅固な目標を与えて積極的に取り組んでいる。いずれの記述も中国がどのように多方面かつ綿密に戦略を研究し、実行しつつあるか詳細な分析を紹介している。本書は中国共産党の極秘文書ではなく公開文書、その解説書、および中国人民解放軍（ＰＬＡ）の補足資料等いわゆる公刊資料を徹底的に著者が読み解いた上での分析であるが、それでも中国が軍事戦略を相当に練りに練り

あげていることをひしひしと感じさせられる。トランプ政権の「国際通商会議代表」に就任したピーター・ナバロ氏は彼の著書『米中もし戦わば』において、中国の軍事戦略は米国および同盟諸国のそれよりも一枚上手と述べているのもむべなるかなと感じる。このような中国の軍事戦略および軍事力の向上に対し

上させ、軍民統合、ＭＯＯＴＷにも堅固な目標を与えて積極的に取り組んでいる。いずれの記述も中国が
どのように多方面かつ綿密に戦略を研究し、実行しつつあるか詳細な分析を紹介している。本書は中国共
産党の極秘文書ではなく公開文書、その解説書、および中国人民解放軍（ＰＬＡ）の補足資料等いわゆる
公刊資料を徹底的に著者が読み解いた上での分析であるが、それでも中国が軍事戦略を相当に練りに練り

あげていることをひしひしと感じさせられる。トランプ政権の「国際通商会議代表」に就任したピーター
・ナバロ氏は彼の著書『米中もし戦わば』において、中国の軍事戦略は米国および同盟諸国のそれよりも
一枚上手と述べているのもむべなるかなと感じる。このような中国の軍事戦略および軍事力の向上に対し
脅威を感じるとともにある種の羨望さえ感じる。

翻って我が国のいわゆる軍事戦略・自衛隊の戦略を考えると、周知のとおり、我が国の憲法は軍の存在
を認めず、かろうじて自衛権は存在するとの解釈により、自衛隊の存在は合憲とされている。このため専
守防衛という政策を取り他国を攻撃するような攻勢的行動は基本的に実施しないこととされている。平成
25（２０１３）年12月に公表された「国家安全保障戦略」においても、防衛の理念として我が国は「戦後
一貫として平和国家としての道を歩み、専守防衛に徹し、他国に脅威を与えるような軍事大国にならず、
非核三原則を守るとの基本原則を堅持してきた」と謳い、平成27年4月公表の「日米防衛協力のための指
針」では対処行動の基本的考え方として、「自衛隊は日本およびその周辺海空域ならびに海空域の接近経
路において防勢作戦を主体的に実施する…」とされている。要するに、我が国は専守防衛に徹し、防勢作
戦を実施するのが基本とされている。さらに言えば、敵に攻撃された場合、これにどのようにして対処す
るかということであり、原則的に、自らある目的を持って、あるいは有利な状況を作為するため攻撃を仕
掛け、戦いを有利に進めるということは、実施しないことになっている。専守防衛は戦略守勢という意味
で国家戦略的には成り立つかもしれないが、軍事戦略的には先制攻撃も実施する中国の積極防御とまった
く異なり、軍事的合理性にまったく欠ける考えである。これが自衛隊内にも深く浸透し軍事戦略レベルの
攻勢作戦についても考察しない傾向に陥っていくことを憂慮する。たとえば、サイバー戦においてもサイ
バー防御は研究し実施するが、サイバー攻撃については表立って研究・演練することを憚るようなことに

なってはいないであろうか。健全な軍事戦略研究は攻勢作戦の研究があって初めて活性化し実のあるものとなる。すなわち精強な戦闘集団は健全な軍事戦略なくしてあり得ない。さらに我が国の戦略研究を中国に比較して見劣りするものにさせている原因として、自衛隊は軍隊でなく警察の亜流の戦闘集団であることである。警察組織は法律的裏付けのあることにだけその権力の行使が可能なポジティブリストで行動する。一方、軍隊は行使してはならない項目以外のことはすべて指揮官の裁量で実施できるネガティブリストで行動する。このネガティブリストによる行動の自由があって初めて健全な戦略論が活性化し国の安全が保障される。警察亜流組織で強大な戦力を持つ人民解放軍に立ち向かうのは極めて困難であることは自明のことである。

本書におけるいずれの記述も中国がどのように多方面で綿密に戦略を研究し、かつ実行しつつあるか詳細な分析を紹介している。宇宙、サイバー領域、南シナ海および東シナ海等で現実に進行中の中国の活動は、『戦略学』、国防白書および関連公文書等において繰り返し述べられていた戦略思想が具体化されたものであり、それらは単に「ページ上の言葉」ではなく、PLAが強い決意を持って、計画し実行しようとするものであり、今年あるいは来年にも実行に移されるものと認識し、早急に対応しなければならないと本書は警鐘を鳴らしている。本書を熟読され、中国恐るべしと実感していただき、早期に憲法を改正し、自衛隊を国防軍に改め、日米安保体制の強化を図り、国防体制を万全なものにしなければ、中国との軍事的懸隔は日に日に拡大していき、取り返しのつかないことになることを認識していただければ望外の幸せである。憲法の改正が1日でも遅れれば、その分中国は先行し、百田尚樹氏が言われるように「カエルの楽園」が「地獄と化し」やがて日本は中国に併呑されてしまうことになりかねない。

終わりに、本書を刊行するにあたり、翻訳権交渉窓口であるジェームズタウン財団China Brief編集者のピーター・ウッド（Peter Wood）氏、本書の編者であり執筆者の1人であるDefense Group Inc.情報研究分析センター研究分析者のジョー・マクレイノルズ（Joe McReynolds）氏、株式会社原書房編集部長の石毛力哉氏、株式会社エヌ・エス・アール代表取締役社長の木村初夫氏のご尽力に対して翻訳者一同を代表し深甚

的懸隔は日に日に拡大していき、取り返しのつかないことになることを認識していただければ望外の幸せである。憲法の改正が1日でも遅れれば、その分中国は先行し、百田尚樹氏が言われるように「カエルの楽園」が「地獄と化し」やがて日本は中国に併呑されてしまうことになりかねない。

終わりに、本書を刊行するにあたり、翻訳権交渉窓口であるジェームズタウン財団China Brief編集者のピーター・ウッド（Peter Wood）氏、本書の編者であり執筆者の1人であるDefense Group Inc.情報研究分析センター研究分析者のジョー・マクレイノルズ（Joe McReynolds）氏、株式会社原書房編集部長の石毛力哉氏、株式会社エヌ・エス・アール代表取締役社長の木村初夫氏のご尽力に対して翻訳者一同を代表し深甚の謝意を表したい。

2017年4月吉日

元海上自衛隊自衛艦隊司令官

五味睦佳

編者序文

この20年以上にわたって、中華人民共和国は列強の軍隊を打倒し得る近代化された軍隊に人民解放軍（PLA）を転換させる壮大な事業に取り組んでいる。第一次湾岸戦争で、米国の使用した精密誘導弾およびC4ISR技術が、イラクの旧式で機械化された部隊を決定的に撃破したことを見た中国軍関係者は改革を急がなければ、同じような運命が戦闘においてPLAにも降りかかることを悟った。この時点から、現代戦を戦い得るPLAにすることが、中国の政策遂行序列の最高位項目の1つとしてしっかりと位置付けられた。

その後の指導者はそれぞれPLAの軍事構成だけでなくその戦略的指導においてその足跡を残している。江沢民は当初「ハイテク条件下の局地戦」に勝利し得るようPLAの強化に力点を置いたが、漸次、胡錦濤が強調する近代の情報戦を戦い抜き、これに勝利するべく情報化され、さらに胡錦濤の提唱する戦争以外の軍事作戦（MOOTW）を重視する「新歴史的使命」をも遂行し得るPLAに移行することにその主張を変えていった。習近平指導の時代になると、PLAの兵力組成に関する大改革と南シナ海等における核心的利益への中国の膨張路線に沿って、指導的軍事戦略思想の変革は継続されている。

中国の軍近代化とアジア太平洋における外交政策の決定的な違いによって、中国との深刻な対決の可能性が増大していると米軍および政策決定グループはみている。米国および中国は互いに平和状態にあり、かつての米ソの古い軍事的対決とはまったく異なり、相当程度に経済的に密接な関係にあるので、我々は新冷戦状態にあるわけではない。しかしながら、中国と米国またはその同盟国との軍事衝突に発展しかねない多数の紛争発火点が存在する。中国の行動に対する政策を立案し、これに対応する際、近代化しつつ

を変えていった。習近平指導の時代になると、ＰＬＡの兵力組成に関する大改革と南シナ海等における核心的利益への中国の膨張路線に沿って、指導的軍事戦略思想の変革は継続されている。

中国の軍近代化とアジア太平洋における外交政策の決定的な違いによって、中国との深刻な対決の可能性が増大していると米軍および政策決定グループはみている。米国および中国は互いに平和状態にあり、

かつての米ソの古い軍事的対決とはまったく異なり、相当程度に経済的に密接な関係にあるので、我々は新冷戦状態にあるわけではない。しかしながら、中国と米国またはその同盟国との軍事衝突に発展しかねない多数の紛争発火点が存在する。中国の行動に対する政策を立案し、これに対応する際、近代化しつつある中国の軍事能力と中国指導部の軍事的思想を理解することは極めて重要なことである。

しかしながら、軍事的プラットフォームや技術的なＰＬＡの優越性を列挙するための献身的な努力にもかかわらず、中国の戦略思想における最近の発展に関して分析者や政策立案者が利用できる総合的な情報を得る方法はほとんど皆無である。中国の軍事・戦略界は最近の動向や討議内容を説明するさまざまな影響力に富みかつ権威ある書物を発行している。しかしながら、こうした情報を吸収し、咀嚼し、またその中心となる見識を西側の聴衆に伝えるために必要な高い見識を持ち、しかも中国語能力に堪能である西側の学者はほんの一握りしかいない。情報が西側の政策立案者に届いたとしても、それは相当の時間が経過した後である。すなわち、権威ある中国の戦略刊行物はその準備に数年掛かるのが通例であり、さらに西側の分析者が新しく入手したものを彼らの見積もりの中に融合し始めるまでに、さらなる時間が経過してしまっている。この年単位の時間差があるために、世界の最も重要な論議すべき二国間の国家安全保障関係がどのようにあるべきかについての相互の戦略的理解を難しいものにしている。結果として、中国の軍事的行動についての外国における論議は通常、中国軍に導入された新装備武器への観察、中国指導部の公式の発表および行動に集中しており、危機に際して中国の軍および政府関係者がどのような意志決定をするかを予想するには不十分である。

この理解のギャップはいくつかの重要な方策における米国の中国政策の論議を偏向させている。第一は、英訳された数少ない軍事戦略に関しての中国公認の文献を、たとえそれが権威あるものでも代表的な

を変えていった。習近平指導の時代になると、PLAの兵力組成に関する大改革と南シナ海等における核心的利益への中国の膨張路線に沿って、指導的軍事戦略思想の変革は継続されている。

中国の軍近代化とアジア太平洋における外交政策の決定的な違いによって、中国との深刻な対決の可能性が増大していると米軍および政策決定グループはみている。米国および中国は互いに平和状態にあり、かつての米ソの古い軍事的対決とはまったく異なり、相当程度に経済的に密接な関係にあるので、我々は新冷戦状態にあるわけではない。しかしながら、中国と米国またはその同盟国との軍事衝突に発展しかねない多数の紛争発火点が存在する。中国の行動に対する政策を立案し、これに対応する際、近代化しつつある中国の軍事能力と中国指導部の軍事的思想を理解することは極めて重要なことである。

しかしながら、軍事的プラットフォームや技術的なPLAの優越性を列挙するための献身的な努力にもかかわらず、中国の戦略思想における最近の発展に関して分析者や政策立案者が利用できる総合的な情報を得る方法はほとんど皆無である。中国の軍事・戦略界は最近の動向や討議内容を説明するさまざまな影響力に富みかつ権威ある書物を発行している。しかしながら、こうした情報を吸収し、咀嚼し、またその中心となる見識を西側の聴衆に伝えるために必要な高い見識を持ち、しかも中国語能力に堪能である西側の学者はほんの一握りしかいない。情報が西側の政策立案者に届いたとしても、それは相当の時間が経過した後である。すなわち、権威ある中国の戦略刊行物はその準備に数年掛かるのが通例であり、さらに西側の分析者が新しく入手したものを彼らの見積もりの中に融合し始めるまでに、さらなる時間が経過してしまっている。この年単位の時間差があるために、世界の最も重要な論議すべき二国間の国家安全保障関係がどのようにあるべきかについての相互の戦略的理解を難しいものにしている。結果として、中国の軍事的行動についての外国における論議は通常、中国軍に導入された新装備武器への観察、中国指導部の公式の発表および行動に集中しており、危機に際して中国の軍および政府関係者がどのような意志決定をするかを予想するには不十分である。

この理解のギャップはいくつかの重要な方策における米国の中国政策の論議を偏向させている。第一は、英訳された数少ない軍事戦略に関しての中国公認の文献を、たとえそれが権威あるものでも代表的な

ものでないにも関わらず、極めて重要なものとして取り扱うことにより偏向が掛かっている。第二は、そのギャップは政策立案者のためのＰＬＡの兵力組成および作戦における観察された変化を感知し正しく咀嚼する西側分析者の能力を低下させる。中国軍事戦略に関する現時点での刊行物に接することなく、分析者と政策立案者は陳腐化した時代遅れの翻訳物や公式のＰＬＡ見解に頼らざるを得ない状況である。十分な情報がない場合、分析者および政策立案者は相手の感情および行動も自分と変わらないと思い込むいわゆるミラーイメージになりがちである。もし我々がその立場であったなら、ＰＬＡの戦略に対する間違ったアプローチを取るようになることは本質的には同じであろう。最後に、そのギャップは、中国の台頭に対して軍事的にどのように対応するかについて、積極的よりも消極的な方向へ米国の計画者を押しやっている。深遠な戦略の変更を示す指導的指針に関する情報がなければ、西側分析者は政策の変更または予期せぬ中国の軍事行動のすぐ傍らにあっても何も認識しないままの状態になりがちである。

本書『中国の進化する軍事戦略』は中国の戦略思想における重要な最近の進化についての各部門のエキスパートによる分析を西側の外交政策関係者に提供することによって中国の戦略思想を正確に把握しようとするものである。ティモシー・ヒース（Timothy Heath）とテイラー・フラベル（Taylor Fravel）による最初の２つの章はＰＬＡ戦略の根源と形成の大局的な問題と中国の戦略思想の進化における幅広い動きを解明しようとしている。クリスティーナ・ガラフォラ（Cristina Garafola）、アンドリュー・エリクソン（Andrew Erickson）、およびマイケル・チェイス（Michal Chase）は、空軍、海軍、およびロケット軍、すなわち、通常部隊における戦略思想の最近の変更について論述している。さらに、ジョン・コステロ（John Costello）、ピーター・マーティス（Peter Mattis）、ジョー・マクレイノルズ（Joe McReynolds）、ケビン・ポルピーター（Kevin Pollpeter）、およびジョナサン・レイ（Jonathan Ray）による詳細な電磁戦、ネットワーク戦、および宇宙戦に対する中国の戦略的アプローチの検証を踏まえつつ、情報戦の非伝統的領域に討議を展開している。デニス・ブラスコ（Dennis Blasko）、モルガン・クレメンス（Morgan Clemens）、およびダニエル・アルダーマン（Daniel Alderman）による最後の３つの章は抑止、戦争以外の軍事作戦および中国の国防近代化指向における国民の一体化と称する[illegible]戦略的アプローチについて述べている。要するに、編

Erickson)、およびマイケル・チェイス（Michal Chase）は、空軍、海軍、およびロケット軍、すなわち、通常部隊における戦略思想の最近の変更について論述している。さらに、ジョン・コステロ（John Costello）、ピーター・マーティス（Peter Martis）、ジョー・マクレイノルズ（Joe McReynolds）、ケビン・ポルピーター（Kevin Pollpeter）、およびジョナサン・レイ（Jonathan Ray）による詳細な電磁戦、ネットワーク戦、および宇宙戦に対する中国の戦略的アプローチの検証を踏まえつつ、情報戦の非伝統的領域に討議を展開している。デニス・ブラスコ（Dennis Blasko）、モルガン・クレメンス（Morgan Clemens）、およびダニエル・アルダーマン（Daniel Alderman）による最後の3つの章は抑止、戦争以外の軍事作戦および中国の国防近代化指向における軍民の一体化を含むPLAの平時の戦略的アプローチについて述べている。要するに、編者および著者は中国の戦略思想における最近の傾向の総合的な状況を提供することにより西側分析者および政策立案者が中国の意図を見積もり、どのようにして中国の行動に最善に対応するかを決定するための優れた概念的かつ実際的な枠組みを構築することを願っている。

このプロジェクトは多くの友人および同僚の支援なくして成功することはできなかったし、本書の著者はこの人たちの貢献に対し心から御礼を申し上げる次第である。ケネス・アレン（Kenneth Allen）は多くの著者に時間と豊富な学識を提供してくれた。ジェームズタウン 財団のピーター・ウッド（Peter Wood）は本書を印刷するに際して、素晴らしい編集作業をしてくれた。グレン・ハワード（Glen Howard）はこのプロジェクトの立ち上げの段階から経営レベルで擁護してくれた。編者とジェームズタウン財団は本書に対するスミス・リチャードソン（Smith Richardson）財団の支援に対し感謝申し上げる。最後に、編者は、マイク・グリーン（Mike Green）、ロニー・ヘンリー（Lonnie Henley）、ジェームズ・ムルベノン（James Mulvenon）、およびボブ・サッター（Bob Sutter）に対し中国分析者としての編者の若年の頃からの助言者としての働きに感謝したい。中国分析者の新しい世代を鍛える彼らの支援と忍耐がなければ、このようなプロジェクトはあり得なかったであろう。